

図画工作科指導案

指導者 T1横山由季

日時 令和5年11月18日(土) 9:00~9:45
年組 特別支援学級 高学年(6年生1名)
場所 特別支援学級 高学年教室
題材 養高博物館 with 遠隔操作ロボット

題材について

本学級に在籍する児童は、知的障害のある6年生の児童1名(以下、⑨児)である。⑨児は、つくりだす喜びや美しいものに感動する心を持ち、新規的な活動に興味関心が高い。また、豊かな感性をもっており、想像力をふくらませて絵画や創造的な活動に取り組んでいる。4年生の時には、校内に「交流スペース養中美術館」を設け、個性を生かした作品展示や交流イベントを主催して通常学級と交流及び共同学習を行った。6年生の校外学習では、花屋、美術館、水族館など公共の施設を訪問し、目的を達成したり、それらの施設で出会う方々との会話を楽しんだりなどの経験をしてきている。修学旅行では、沖縄県の伝統的な民族衣装を試着し、柄や色遣いを魅力的に感じていた。国語科では、平和学習を通して昔と今の違いを知ったり、伝承遊びを学んでびゅんびゅんごま作りを提案し制作したりした。さらに、下級生より昨年度遠隔操作ロボットを通した博物館見学についての活動報告を受け、⑨児自身も博物館に関心を持ち期待感を抱いている。日常生活においても家族と一緒に、居住地域の行事に参加したり、美術館や博物館を訪れたり、絵画コンクールに応募したりなど様々な人や物に触れ、社会と関わりをもっている。

本題材では、以上のような実態から、⑨児が体験や感動したことを基に表したいことを探究する機会を設定したいと考えた。そこで⑨児が、歴史や伝統的な文化について造形的な特徴や自分のイメージなど自分なりに感じたこと、学んだことを他者と共有する空間として教室にミニ博物館(以下、養高博物館)を作ることとした。そして、他者の見方・考え方に共感したり、それを基に自分の見方・考え方を働かせたり、伝えたりする活動へと展開する題材とした。活動の中には、学芸員の方々のやりとりを設けたり、実際に博物館を訪問したり、遠隔地の人に活動を紹介したりなど視野を広げるようにした。また、目的に応じて、タブレット端末や遠隔操作ロボットなど情報機器を利活用した。本題材を通して、博物館を身近に感じ、目的をもち公共の施設を訪問したり社会と関わる楽しさを知ったりして余暇活動を楽しむ素地を育てたい。なお、本題材は、特別支援学校学習指導要領小学部の生活科の内容3段階「社会の仕組みと公共施設」、国語科の内容3段階〔思考力、判断力、表現力等〕A聞くこと・話すことの指導事項イ、ウ、オ、カなどに関連を図った。

指導にあたっては、他教科や日常生活と関連を図り、⑨児の造形的な見方・考え方を引き出して、言葉に整理したり、絵や立体に表したりして学びを深めるなど表現と鑑賞の一体化を図るようにする。主体的な鑑賞や創造的な養高博物館の構想を練る姿勢に対して、好奇心を刺激するような言葉掛けや環境設定を行う。本時は、会員の方にロボット操作をしていただき、⑨児が養高博物館の案内、展示品の紹介、遠隔操作ロボットの操作説明などの練習を行う。⑨児は、何事にも主体となって活動することを好むため、その思いに寄り添いつつ本時の目標を意識するよう促して、自己有用感を涵養したいと考える。

※養中とは本特別支援学級の中学年学級、養高とは本特別支援学級の高学年学級の略称である。

題材の目標

- 1 歴史や文化に関心を持ち、伝統のよさ、美しさ、継承について知ることができる。
- 2 体験や既習事項を基に、造形的な見方・考え方を自分なりに言葉にしてまとめたり、創造的に絵や立体に表したりすることができる。
- 3 歴史や文化について他者と交流することができる。

「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

| |
|---|
| 具体的な児童の姿 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、物事を比較することや工夫することへつなげることができる。 ・一つの活動に、造形的な見方・考え方を働かせてじっくり取り組むことができる。 ・目的をもち公共の施設を訪問したり、既習事項を基に日常会話をしたりすることができる。 |
| 手立て【関連する教師の資質能力】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○公共の施設と連携して児童の活動の幅を広げるようにする。【授業構想力】 ○日頃から、造形的な見方・考え方に関する話題に触れたり、イメージ豊かな会話をしたりするようにする。また、児童の興味関心に基付いた授業展開や、児童が主体となって活動できる環境を設定するようにする。【授業実践力】 ○児童の言動の変容を抽出し、どのような場面で目標に関する言動や探究心が喚起されるのかを考察する。【授業分析・評価力】 |

指導内容と計画

全 16 時間（本時 第四次 第 3 時）

| | | |
|-----|--------------|------|
| 第一次 | 昔のことを調べてみよう！ | 1 時間 |
| 第二次 | 博物館を訪問しよう | 4 時間 |
| 第三次 | 養高博物館をつくろう | 5 時間 |
| 第四次 | 養高博物館へようこそ | 6 時間 |

本時の目標

- ・既習事項を基に伝えたり、展示品に関する他者の見方・考え方を知ったりすることができる。

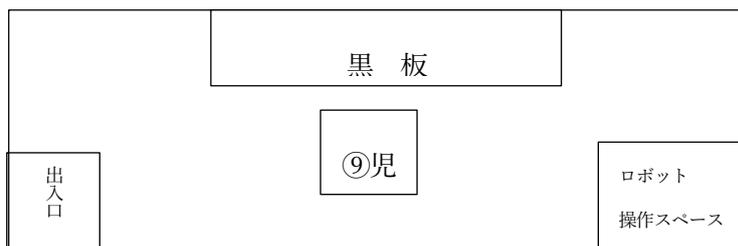
個別の目標

| 児童 | 実 態 | 目 標 行 動 |
|----|---|---|
| ⑨ | <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習や昔の暮らしの学習を通して、今と昔が異なることが分かりつつある。絵本やインターネットで、昔の暮らしについて調べることができる。 ・日常生活の会話の中に、既習事項を関連付けた発言が見られるようになってきている。また、別の物に見立てたり、自分のイメージを絵に表したりすることが得意である。混色が好きで、作りたい色を作ることができる。美術館でデジタルアートを体験後、想起しながら絵と言葉でデジタルアート作品や体験している自分を表現した。 ・他者と交流したい思いがあり、進んでかかわろうとすることができるが、時に一方的である。詳しく問われて困る時は、話題を変えようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化の視点を踏まえ、養高博物館を紹介することができる。 ・色、形、質感、イメージなどの造形的な見方に関する語彙を説明や会話の中で使うことができる。 ・比較したり、特徴を捉えたりなど考え方について、他者と共有することができる。 ・歴史や文化に関する話題に触れながら、他者と会話を楽しみ、続けることができる。 |

準備物

博物館展示品、目標カード、タブレット端末、遠隔操作ロボット、パソコン、マウス

座席表



学習の展開

| 学習活動 | 目標行動 (○)・及び 支援 (・) |
|---|---|
| | ⑨児 |
| 1 始めの挨拶をする | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の始まりが意識できるように姿勢を整える |
| 2 本時の目標と活動を知り、見通しをもつ ・目標、活動の確認 ・ロボット操作をしていた だく会員を決める | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を設定し、活動の見通しをもつことができる ・⑨児の言葉を用いて、目標として相応しい文章表現と一緒に考えるようにする ・適切な言葉遣いで依頼をするよう言葉掛けをする |
| 3 養高博物館を紹介する | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を意識して、養高博物館の展示品について説明したり、会話を楽しんだりすることができる ・会員の興味関心や通信状況に応じて説明するよう言葉掛け、サインや手差しで示すようにする ・受容や共感を示すためにうなずきや相づちを行ったり、発言内容を称賛したりする ・会員の質問に関して調べる必要がある場合は、状況に応じて調べたり、メモをして後日調べたりするなどの選択を促すようにする |
| 4 本活動の感想を聞く ・操作者、参観者 | <ul style="list-style-type: none"> ○感想を自分の造形的な見方・考え方に活用しようとするすることができる ・感想の一部を児童にとって理解しやすい言葉や獲得したい文章表現に言い換えたり、具体例を交えたりして再度説明することで、感想と児童の言動を結び付けるようにする ・感想から得た改善点を、次の活動に活用するよう言葉掛けをする ・達成感をもつことができるような言葉掛けを行う |
| 5 振り返りをする | <ul style="list-style-type: none"> ○目標に対する活動の振り返りを、言葉や具体物で表現することができる ・振り返りに向けて学習環境を整えるよう言葉掛けを行う ・児童のもつ言葉を引き出すように語り掛けたり、達成感が感じられる言葉で称賛したりする |
| 6 終わりの挨拶をする | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の終わりが意識できるように姿勢を整える |